高砂市民病院

緩和ケア病棟公開

10日にオープン 終末期医療に対応

高砂市民病院（高砂市荒井町紙町）は6日、終末期医療を担う緩和ケア病棟の10日オープンを前に、市民や関係者向けの内覧会を開いた。一般病棟を改修し、患者の気持ちが和らぐ設計にしたという。

緩和ケア病棟は東播で2カ所目。約900平方㍍で、西病棟の6階に設けた。18の個室のほか、グリーフ（悲嘆）ケアが受けられる多目的室や家族の宿泊室があり、明石海峡大橋が望める屋外庭園も備えた。

設計した山根隆さんによると、談話室や廊下は天井を高くして開放感を持たせ、白が一般的な病院の照明に優しい赤を使うなどして、温かい空間に仕上げた。

同市内の民間病院の管理者川端瑞穂さん(51)は「扉の開閉音や足音を消し、トイレへの導線にも配慮がある。患者は安心するだろう」と話した。

また、腎臓病患者らの人工透析病棟も拡充し、8日から稼働させる。本館5階の血液浄化センターにあり、28床を49床に広げる。現在患者120人が受診するが、糖尿病の合併症患者を含め約180人が受けられるという。

（安藤文暁）

屋外庭園につながる談話室。カウンターキッチンもある＝高砂市荒井町紙町